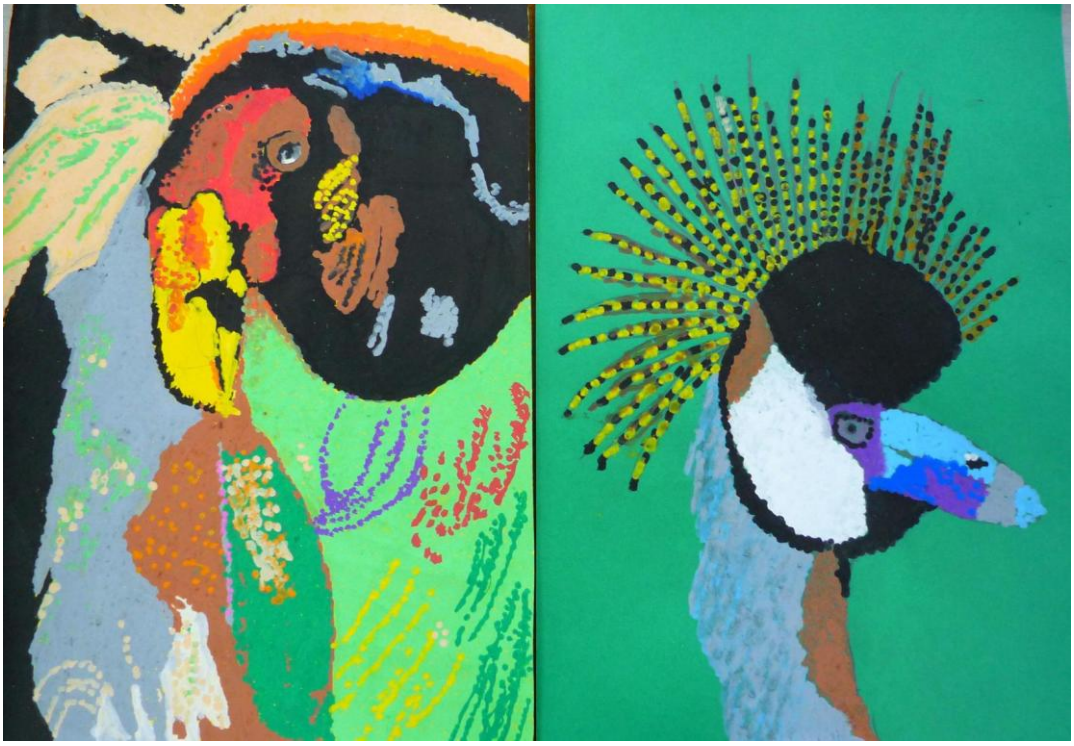
KSKQ　（ファースト・ラン NO.82）　第三種郵便物承認　通巻第 7310 号　2012 年 6 月 8 日発行(1)

多くの仲間とともに現在を変え未来を創造するために 2012年6月

KSKQ ファースト・ラン　NO.82

一九九一年九月三日　第三種郵便物認可　毎月（1・2・3・4・5・6・7・8の日）発行　定価百円



『とり』　黒田 恭亮 氏

スタッフリレーコラム～こんなメンバーであんじょうやってます～

『箕面の逸品』

昨秋、テレビで興味深いものを見つけました。箕面市長もイチオシの箕面の新たな逸品です。東急ハンズでも品薄でしたが、たまたま友人から聞いて１７１号線沿いのデューク書店に駆けつけました。それは、鍵付きのガラスケースの中に一本一本丁寧に箱に入って綺麗に飾られていました。店員さんの話によると地元だから特別に融通してもらっているとのこと。背中に“夢”と書かれた作務衣を着ているあぐら姿の職人をワンポイントにしたとてもシンプルなデザインに強いこだわりを感じました。

“ＭＩＳＯＫＡ”というこの歯ブラシは、毛先にナノミネラルをコーティングしています。その働きで歯の表面が親水性になり、高層ビルの壁が雨水によってキレイになる技術で、口の中の唾液で汚れが付きづらくなり、朝磨いたままの状態が夜まで持続するのだそうです。水に漬けて磨くだけでツルツルとサッパリとした爽快感！　さすが１０５０円★ナノテクはタダモノではないと感動しました。３０日（三十日）で魔法がとけてしまうなんてモッタイナイ！！　再利用できるのなら、もっとエコでいいですね！（庄川　由美）

地域交流センター「さんかくひろば」始動に向けて！

私が小学校２年生まで住んでいた豊中市の向丘には、裏山に洞穴があり、すすきの野原があり、千里川にはザリガニがいました。夏には朝から近所のこどもたちと一緒にクワガタを捕りにいったり、秘密基地を作ったりして時間を忘れて一日中遊んでいました。

いつからでしょうか、全力で走りまわって遊ぶこどもの姿を見かけなくなりました。私がこどものころ遊んでいた辺りは高層マンションや駐車場になり、アスファルトに覆われてしまいました。このような環境の変化により最近のこどもたちの主な遊び場は家の中へと移り、外遊びをする中で自然にできた異世代のこどもや地域の大人との交流が少なくなっています。

その中で、放課後のこどもたちの居場所が限られてくる事が問題としてあげられます。特に障害のあるこどもの場合、学童保育が小学校６年生で終わった後は、支援学校でのクラブ活動がほとんどなく、普通学校でも入れるクラブが少ない為、友達と遊ぶ機会も少なく、家で家族と過ごす事ばかりになるのが現状です。

ミントで行った夏休みこどもデイキャンプです。←

これまでミントは障害をもったこどもたちの休みの活動の場として、夏休みに障害のあるこども向けのイベントやアートサークルなどを行ってきましたが、こどもたちともっと継続した関わりができないかというのが課題となっていました。障害者が自立するためには、こどもの頃から地域の人との交流を持ち、家族以外に関わりをもつ人が必要だという思いがあったからです。

そんな中、箕面市の支援学校や支援学級に在籍している保護者のグループ、スマイルシードさんの「障害のあるこどもが地域で過ごす場所がない」という問題提起をきっかけとし、保護者や教育現場に関わる方、地域のＮＰＯ、障害者事業所のスタッフなど地域の関係者の方々と共に、障害児の放課後支援の取り組みについて話し合う全７回の検討会を持ちました。

クラブ活動を含めた放課後活動の乏しい実情や、家族、特に母親が障害のあるこどもと常に過ごしている実態、障害のあるこどもが地域と関わりながら過ごせる、「家でも学校でもない第３の場所の必要性」など、さまざまな意見が出されました。その検討結果をふまえ、当法人は地域の活動拠点として、地域交流センター「さんかくひろば」を２０１２年８月にオープンすることになりました。

「さんかくひろば」は、「相談支援」「送迎サービス」「放課後等デイサービス」を基本事業とします。加えて市民交流スペースとして、まずメインにコミュニティカフェを設けます。そこに、地域の人が集まってくれる仕掛けのひとつとして、たこやきブースを作る予定です。障害のあるこどもが地域の人と交流できる場になればいいと思っています。

↑　ただいま改装中。どんなふうになるのか楽しみにしてくださいね。

↑裏には花壇もあります。何を育てようかな～。

「さんかくひろば」では、障害のあるこども一人一人のやりたいことを一緒に見つけ、必要なサポートをします。そして、障害のあるこどもの放課後の居場所に留まらず、地域の人たちや障害のないこどもにも来てもらえるような、それぞれが学校や家庭とまた違う人間関係をつくれる場所、相互にコミュニケーションがとれるような場所を目指します。

私は、そういう場所は障害のある人にも必要ではありますが、障害のないこどもや大人の中にも、そういう場所を必要とする人がいると思います。そして、地域にとっても必要なのだと考えています。

私が思い出すのは、昔桜井にあったころの豊能障害者労働センター（以下センターと略）です。ずいぶん昔のことですが、当時は細い路地裏にセンターがありました。車いすスタッフを他のスタッフが背負ってセンターに入っていました。粉せっけんの袋詰めをしていたため、入口には粉せっけんが舞い、くしゃみが止まらず、ぼろぼろの家でした。当時こどもだ

った私は、両親が関わっていたセンターによく行っていました。違う学校の友達ができたのもそこでした。当時はみんな、こどもを連れてきていたのです。センターには、健全者も障害者も、いろいろな大人がいておもしろかったです。

こどもは大人たちの背中を見て育ちます。親の生き方だけでなく、色んな大人がいて、色んな生き方があることをこどもの頃に知ることは、大人になってしんどいことがあったときにきっと役にたつと思います。

私は放課後等デイサービスの管理者になりますが、「さんかくひろば」でこどもが過ごすにあたってのルールはできるだけこどもたちと一緒に決めたいと思います。こどもが主体的に関わったり、役割を担う場所になればいいなぁと思います。

はじめてのことだらけで、難しいことや悩むことも多々出てくると思いますが、色んな人のお力や助言をいただきながら進めていきたいと思います。協力いただけるボランティアさんも募集中です。どうぞよろしくお願いします。（細谷　明代）

「さんかくひろば」の「さんかく」には、それぞれの人の自立や参画を共に実現したいという思いをこめています。自由な雰囲気を大切にしていきたいです。

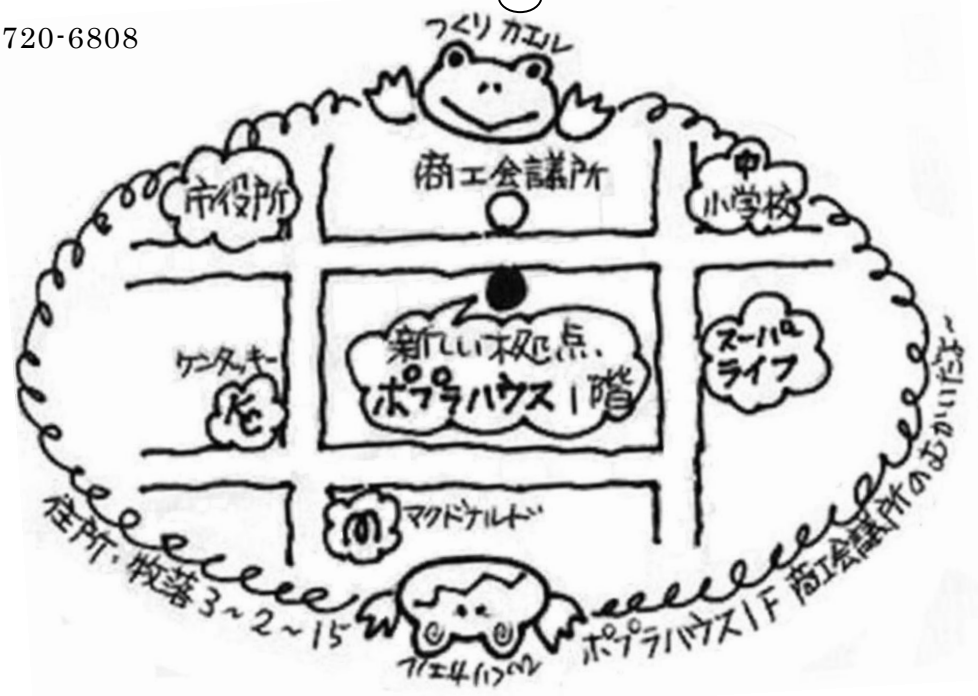
★放課後等デイサービスとは？

今年４月から始まる新制度で、「児童デイサービス」から移行する制度です。

当法人が行う放課後等デイサービスについて、詳しい事は管理者細谷までお問い合わせください。

ＴＥＬ072-720-6806

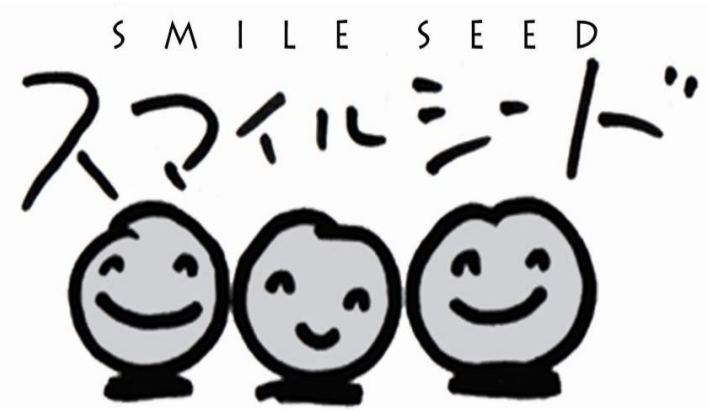
ＦＡＸ072-720-6808



障害児の放課後支援検討会に参加された団体紹介

スマイルシードさんは、アンケート調査などを行い、障害児の放課後支援の必要性を関係団体や行政に伝える活動を続けて来られました。

検討会にも参加、ご協力いただいたスマイルシードさん（支援の必要な中高生の豊かな地域生活を考える会）の発行するスマイルシード新聞７号「学習交流会報告」より一部原稿を転載させていただきました。



一年近く前、これから何をどう活動していくかメンバーで考えていました。一年半近いそれまでの活動によって、障がいのある中高生が地域で過ごす場所と機会が少ない、何とかしよう！という思いは、同じ保護者の間に、そして地域の周辺の人たちの間に広がり、それなりの共感は得られたのではないかとの感触を得ていました。では次に自分たちにできることは何か？それを考えた時、この課題で何らかの前進をみるには、実際に子どもたちとその家族を支援する事業をしてくれる事業者の理解を得ることが必須と思われました。そのためにも更に家族の思いを汲み上げ、届け、伝える努力が欠かせないというのが私たちの結論でした。

その一つが保護者を対象としたアンケート調査。子どもが市立小中学校に籍を置く家族だけではなく、地域から府立支援学校に通う子どもの保護者の協力は絶対に外せないことでした。箕面で共に子育てをする家族が一緒にこの課題を考え、そこに行政と関係事業者を巻き込んでこそ意味があると考えました。

そしてもう一つ、私たちがこの課題を考える上で大きな経験となったのが、推進協（※当法人の略です）さんが開催された「放課後検討会」への参加でした。そこで障がい者に携わる様々な立場の、色々な個人の考えを聴き、私たちの思いを伝える機会を連続して持ったのですが、立場や世代によって、もちろん個人的にも、その考えは異なっていることを実感し、だからこそ交流していくことがいかに大切か、それなしでは子どもにとっても家族にとっても納得のいく支援は得られないのではと感じました。

アンケートの趣旨に賛同し、経験のない私たちにアドバイスと協力を惜しまれなかった事業者の方々には心から感謝したいと思います。事業者さんの協力なしにはここまで来れなかったことはまちがいありません。そして一年前には、地域に一つもなかった児童[放課後]デイが複数立ち上がるという嬉しい流れになったのです。

学習交流会での事業者さんそれぞれの話をきいても、各事業者がもちろん仕事ではあるのですが「使命感」をもって取り組まれているのを感じて頂けたのではないでしょうか。私たちも活動を通して事業者さんの事業への取り組みを垣間見る時、その事業が決して平坦ではないことを、そしてそれを支えるお一人ひとりの熱意を感じてきました。

放課後デイはこれから始まる事業です。また、一つの事業所が立ち上がる時、それは出来上がったものではなく、恐らくそこに関わる人たちで育てていくものであることを、私たち保護者も忘れてはいけないと思います。預けて終わり、ではなく、デイが子ども達一人ひとりにとって大切な場所と機会となるように、関心を寄せ声を届けていくような家族でありたいと思います。

ありがとうございました。

スマイルシードとは

支援学校や支援学級に在籍している箕面市在住の子どもの保護者の集まり（グループ）です。支援の必要な中高生の余暇活動や、長期休みの現状を把握し課題を考えるための活動をしています。このような課題について、情報交換したり、必要な福祉サービスが向上されるよう、市とも連携をとりながら活動しています。

スマイルシードさんの詳しい活動内容はＨＰをご覧ください。

ホームページ：smileseed.jimdo.com（←過去に発行した新聞も閲覧できます！）

ブログ： smileseed8.blog134.fc2.com

支援の必要なこどもたちに放課後の活動保障を！
こども時代を豊かに過ごすことのできる場所を！

障害のあるこどもの活動の場づくりのためにカンパをお願いします

近年こどもたちをとりまく環境は大きく変化し、放課後のこどもたちの居場所の保障が社会問題化しています。まして障害のあるこどもたちは、学童保育が終了する小学校６年生以降は、家以外に過ごす場所が極端に少なく、多くのこどもがクラブ活動も保障されず、家族が障害児を抱えこむ「家族カプセル」化が大きな問題となっています。

その課題に取り組むべく、障害のあるこどもたちが地域の大人や、同世代や異世代の障害のないこどもと交流できる場づくりを進めるため、私たちは今年８月に箕面市牧落３丁目に地域交流センター「さんかくひろば」をオープンします。

「さんかくひろば」は「相談支援」「送迎サービス」に加え、障害のあるこどもの「放課後等デイサービス」を基本事業としますが、目玉は市民交流スペースです。そこを障害のあるこどもたちが地域と関わりながら過ごせる『家でも学校でもない第３の場所』にしていけるよう目指します。まず、コミュニティカフェ（たこやきを焼きます。）を設け、そこを地域の人たちが集える場所にしていきます。

制度の枠を超えた活動です。運営資金が足りません！

いただいたカンパは市民交流スペース（コミュニティカフェなど）の運営資金に充てます！

ご協力どうぞよろしくお願いします。ご不明な点はなんなりとお問い合わせください。

個人　１口　1000円　　団体　１口10000円

同封の払込取扱票でお振り込みをお願いします。

カンパ振り込み先　箕面市障害者の生活と労働推進協議会　郵便振替00900-1-233283

問い合わせ先　箕面市障害者の生活と労働推進協議会

TEL072-720-6806　FAX072-720-6808

担当　細谷

コミュニティカフェ運営などに

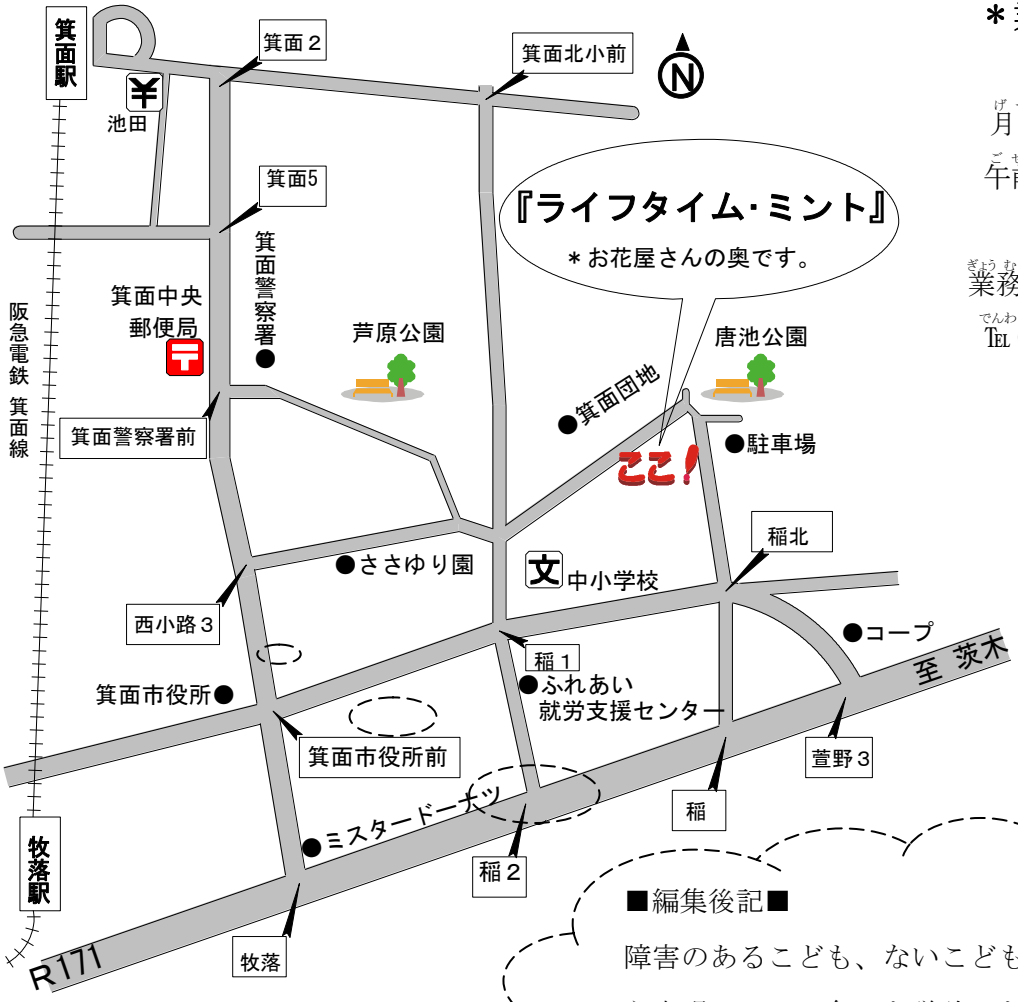
協力していただけるボランティアさんも

同時募集中です！

どうぞよろしくお願いします。

◎　ライフタイムミント　◎

ライフタイムミントでは電話・FAX・Email・ＨＰ・来所・訪問や出張所等様々な方法で相談を受け付けています。



＊業務日時＊

月曜から土曜
午前10時～午後6時

業務日時以外の連絡先
TEL 090-7883-2999
（片野坂）

■編集後記■

障害のあるこども、ないこども、という表現一つで、色々と議論した編集でした。言葉で伝えるって責任もあり難

一九九一年九月三日　第三種郵便物認可　毎月（1・2・3・4・5・6・7・8の日）発行　定価百円

特定非営利活動法人　箕面市障害者の生活と労働推進協議会『ライフタイムミント』
〒562－0001　大阪府箕面市箕面4丁目8番30号
電話(072)720－6806　FAX(072)720－6808　E-mail:mintlife@big.or.jp
http://www19.big.or.jp/~mintlife/index.html

編集／特定非営利活動法人　箕面市障害者の生活と労働推進協議会
〒562-0001　大阪府箕面市箕面4丁目8番30号　電話072-723-3342　FAX072-723-6506
E-mail:JDW07270@nifty.com　郵便振替00990-4-116066

発行人／関西障害者定期刊行物協会　大阪市天王寺区真田山2-2　東興ビル 4階